



豊中市教育センター  
〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600  
TEL 06-6844-5290  
FAX 06-6840-8127  
平成23年(2011年)1月19日第47号

## ～ 思いを伝えることの大切さ ～

年末年始は、ゆっくりくつろぎ、家族とテレビを見て過ごす時間も持てました。

再放送でしたが、聴覚障害のある女性が筆談にて人とのコミュニケーションを図り、自分の生き方を見出していくという実話に基づくドラマがありました。その終末には気まづくなっていた母子関係を修復するシーンがあり、「ごめんなさい」「育ててくれてありがとう」という本人の素直な思いに対し、母親が「あなたが私の娘でいてくれてよかった」と返す場面では、感動とともに涙を流しながら娘と視聴していました。

「ありがとう」「ごめんなさい」「うれしい」「悲しい」など短い言葉ですが、その言葉のもつ力を改めて感じるとともに、その思いは表現しない限り相手には伝わらないということ、相手に自分の思いを伝えることの大切さを思い起こされました。

教師と子どもとの関係づくりでも同様のことが言えると思います。

20年以上前、私が小学校の教師になって数年の時のこと。勉強やスポーツもでき、明るくクラスでは人気もあるAさんが、雨降りの下校時、坂道のところで知的な遅れのあるクラスメートをからかいながら少し押したため、顔に擦り傷を負わせるというできごとがありました。

私は、友だちを大切にすることや命を大切にすることの意味、いじめや暴力の卑劣さなどを切々と話し指導しましたが、どうも本人の心には届いておらず、怒られていること自体をシャットアウトしているようにも感じられました。

そこで、私はたまたま、

「先生は、Aさんのことを大事に思っているよ。」

「だからこそ、昨日のしたことについて怒っています。」

人を傷つけることが平気でできるような人に、なってほしくはないから。」

と思いをぶつけました。

そのとき初めて、Aさんは大粒の涙を流して、

「ごめんなさい。」

と本当に素直な言葉を返してくれました。

トラブルが起きたとき、教師の役割として当然生徒指導をしなければなりません、その子どものした行為について指導し、ダメなことはダメと否定しても、子ども自身を否定しているわけではありません。しかし、その教師の思いは、表現しなければ子どもには伝わらないものです。「あなたのことを大切に思っている」というメッセージを伝えるということは、信頼関係づくりの大切なポイントの一つだと思います。

昨年、Aさんと偶然、電車のホームで20数年ぶりに出会いました。彼は、電車から降りる私の姿を見つけ、「〇〇先生」と声をかけてくれました。教師という仕事をされていてうれしく思う瞬間です。勿論、会えてうれしいと伝えました。(大屋)



# 1月6日(木) 豊中市研究協力員 報告会より

86名のご参加ありがとうございました

研究協力員は、各教科・領域ごとに研究テーマを決めて、年度当初より長期間にわたり、熱心に研究を深めてきました。その内容や成果、課題について報告会がありました。どの部会も新学習指導要領の内容をふまえ、テーマを絞り込んで深めた、大変有意義な研究でした。

参加された方からのコメントを紹介します。

## <アンケートより（一部）>

- ・内容はすごく興味のあることばかりだった。
- ・若い方もいらっしゃるのに、しっかりとしたビジョンをもって、授業を行われていることに、とても感心しました。このような先生方に教えてもらっている子どもたちは、幸せだと思います。
- ・堀田先生のまとめの話が、実践報告のねらいとしていたものを明確にし、又、今後の課題克服につながり、大変良かった。
- ・それぞれの教科領域の新指導要領に示されていることが、実践と合わせて、どのように具体的に現場で取り組むことができるのかがよく分かった。
- ・持ち時間が限られていますが、多くの教科からの報告を受けるほうが共通点もはっきりするなど、よいと思います。
- ・自分の学習不足もあり、発表を理解することが難しかった。もっと自ら学んでいかねばと思った。
- ・どの部会でも研究テーマ、テーマ設定の理由、授業展開、成果と課題などを丁寧に報告されていて、特に“設定の理由”が明確だったので、とても分かりやすかったと感じました。

「分科会形式でやってもらいたい！」

アンケートに書かれたこの言葉の中に、もっと深く学びたいという思いが表れています。

今年は昨年度と比べ、報告本数が増えました。そこで皆さんにすべて聞いてもらえるようにと、6本続けて報告いただきました。ただ、このことで1本あたりの報告時間が短くなり、その内容を伝えていただくことが大変難しかったように思います。

次回開催の折には、この点を含め、より深く学びたいとアンケートに書かれた方のご意見を大切にし、発表する側、聞く側両者にとって充実した報告会となるよう、考えてまいります。

参加いただきました先生方、講師の先生、そして何より報告等いただいた研究協力員の先生方に感謝しております。ありがとうございました。

時間	内容	講師等
13:00～	あいさつ	豊中市教育委員会 学校教育室長 渡辺 浩
13:10～	報告会 ①小学校算数「考える力を育む～子どもの言葉でわかりあえる算数授業～」 ②小学校国語「子どもたちにふさわしい力の系統性をさぐる（説明文）」 ～豊かな読み・確かな読みを求めて～ ③小学校図工「鑑賞領域における授業実践」 — 休憩（5分） — ④中学校数学「中学3年「標本調査」のモデル授業」 ⑤小学校社会「暮らしを見つめ、社会とつながる社会科学習」 ～子どもサイドに立った授業づくり～ ⑥小学校道徳「心をたがやす授業づくりをめざして」	
15:30～	総括講演・助言 『これからの授業のあり方とは』	園田学園女子大学 堀田 博史 教授



### ◆園田学園女子大学 堀田博史 教授より

先生方の熱い思いはよく伝わります。こうして報告いただいたことが研究として積み上がり、先生方の学びとなり、さらに子どもたちの育ちへつなげるためには、授業の方法論に加え、子どもたちの変容を伝えていくことで、より有意義な会になるのではないのでしょうか。

# サイエンスフェスティバル

とよなかの子どもたちに科学の不思議、おもしろさを体験し、「科学大好き！」になってほしいという願いのもと、サイエンスフェスティバルを開催します。従来からの市内中学校、近隣高校・大学などの科学系クラブによる実演や展示・体験コーナーに加え、今年度は、サイエンスショーも実施します。

これまで以上に参加団体も増え、そのアイデア溢れる内容は、授業や科学実験のヒントになるかもしれませんね。よろしければ、ぜひお立ち寄りください。

◆とき◆ 1月29日(土) 12:30～16:30

◆ところ◆ 豊中市蛍池公民館 (蛍池駅西側 ルシオーレビル5階)  
豊中市教育センター (蛍池駅西側 ルシオーレビル6階)

## ◆出展の内容(予定)◆

(1) 各サイエンスクラブによるブース(入場自由) 12:30～16:30

第三中理科部 …ホバークラフト・リニアモーターカー・  
紙コップでポン

第四中自然科学部 …「えっ!セロテープでステンドグラスが?!」

第五中・克明小 …ドライアイスで遊ぼう

第十一中科学クラブ …展示発表 ラジオ製作

豊中高校 …人が乗れるホバークラフト・DNAストラップ

庄内少年文化館サッカークラブ …光通信

桜塚高校化学部 …スライム製作

大阪大学サイエンスクラブ …「浮沈子」「ヘロンの噴水」

この他、府立高専、池田高校、箕面高校、聖母被昇天学院中学校高等学校、園芸高校、北野高校、東淀川高校、西野田工科高校、同志社女子大学、産業技術総合研究所等、数多くの団体が参加を予定されています。

(2) サイエンスショー 「みんなで実験・見えない空気と遊ぼう」(要申込)

時間 ①13:00～13:45 ②15:00～15:45

会場 ルシオーレホール(ルシオーレビル4F)

講師 夢工房 吉田 真一さん

大阪府教育研究所連盟

## 第20回 研究発表大会について(案内)

2月14日(月) 14:00～(受付13:30～)

大阪府教育センター別館5階 第11・12研修室

大阪府の教育の向上・発展と、学校との交流・連携および加盟機関相互の交流と活性化を図ることをねらいとして実施しているものです。先生方の参加をお待ちしております。

### 1 部会報告

・教育相談部会「子どもへの支援のあり方 ～連携～」

報告者：吹田市立教育センター

・共同研究部会「学力向上のための授業改善について

～子どもたちの意識、教師の意識～」

報告者：茨木教育研究所

### 2 特別講演 「臨床・認知科学・神経行動学からみた発達障害」

講師：京都大学大学院 十一 元三 教授

## 子どもたちの社会性を育てるために

～ “ほどよい” が・・・一番難しい!? ～

“隣にいる人に大きい声で話す子” “話す時に身体距離が近い子”、その逆に“遠くから小さい声で質問をする子”、そんな子どもがクラスに一人はいませんか？

人は他者と対する時、身体や心の適度な距離を取ります。そうすることでお互いにとって気持ちの良い関係が築けるからです。しかし、その距離感がつかみにくい子どもたちがいます。ここでは他者との『対人距離』と『声の大きさ』に注目して、どんな言葉で子どもに伝えるかを考えてみましょう。

ほどよい対人距離というものは個人の感じ方によって異なりますし、目には見えない声の大小や強弱は、子どもにとって分かりにくいものです。

### ◇ 立つ位置が近すぎる(遠すぎる)場合

具体的な目安(立つ位置)を示します。

例)「少し近すぎる(遠すぎる)よ。」⇒「このあたり(具体的な場所を示して)でお話してね。」

### ◇ 声の大小や強弱が難しい場合

子どもにとって比較しやすい具体的なイメージを提示します。

例)「もう少し小さな(大きな、又は優しい)声で話して。」

⇒「ありさんの声で話そうか。」  
「ぞうさんの声で話そうか。」

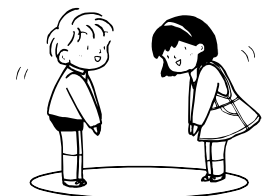
子どもと一緒にどのくらいが「小さい声(大きい声)」なのかを図りながら、「ほどよい声の大きさ」を探索してみてもはどうでしょうか。

上記の2点をふまえて私が相談業務のなかで、距離感のつかみにくい子どもたちと実際にしている『あいさつ』の練習です。

- ① 向き合い、私が手を伸ばして、その指先あたりに立ってもらう。
- ② 「ここ見てね」と顔のあたりを指して、どこに視点をおけばよいかを伝える。
- ③ 適度な声の大きさに「こんにちは」と、まずは私がやって見せる。
- ④ 二人であいさつを試してみる。

そして、それらがうまくできた時に褒めて、「あなたのその行動のおかげで、私はとても気持ちがいい」といった姿勢を示すといいでしょう。子どもにとってその経験の積み重ねが、他者との距離の“ほどよさ”、そして対人関係の“心地よさ”に繋がっていくと思います。

子どもはもちろん、大人どうしても相手の“心地よさ”に目を向け、あいさつから関係を見直してみてもいいのかもしれないね。



(長谷川)